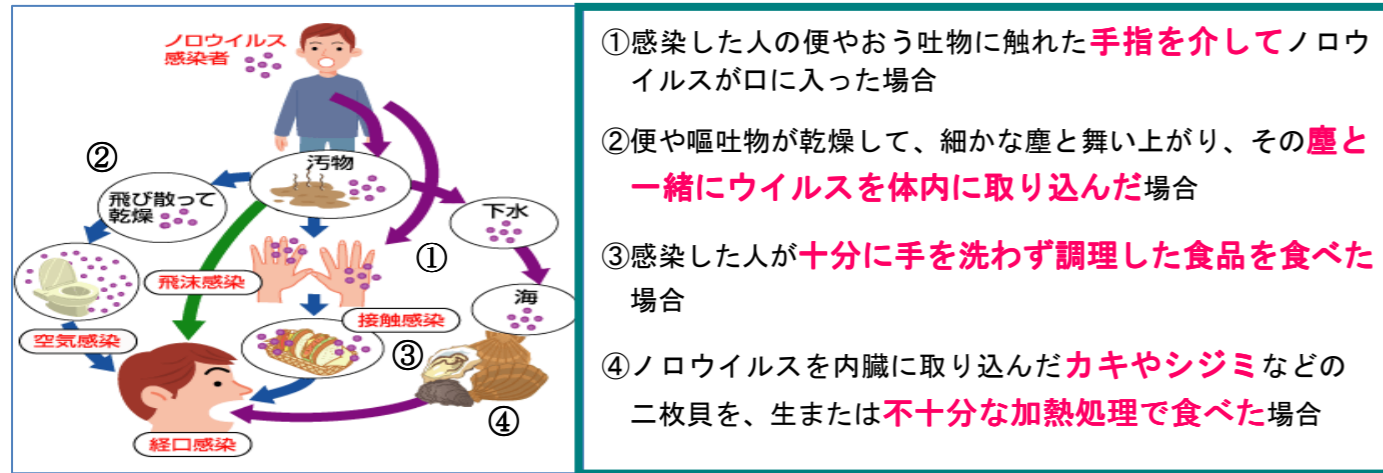


## 1. 感染性腸炎とは？

感染性胃腸炎とは、主にウイルスや細菌などの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。冬場に多く、原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、いわゆる「お腹にくる風邪」と言われている胃腸炎です。

## 2. 原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、ヒトからヒトへの感染と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。



## 3. 症状

感染性胃腸炎の症状は、病原体により異なり、また個人差もありますが、下痢、嘔吐、悪心、腹痛、発熱などを来します。ロタウイルスを原因とする場合は、便が白色になることもあります。また水のような下痢、血便となる場合も多いです。症状が重い場合は脱水症状をおこすこともあります。



## 4. 治療

- ① 水分と栄養の補給  
ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療法はなく、症状を軽減するための処置(対症療法)が行われます。
- ② 乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状  
特に高齢者は、誤嚥(嘔吐物が気管に入る)により肺炎を起こすことがあるため、体調の変化に注意しましょう。
- ③ 嘔吐の症状がおさまったら少しずつ水分を補給  
安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるよう心がけましょう。
- ④ 止しゃ薬(いわゆる下痢止め薬)は、病気の回復を遅らせることがあるので使用しない

## 5. 予防のポイント

- ① 大切なのは手を洗うことです。特に排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ② 使い捨て手袋、マスクエプロンの着用。便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ③ カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心温度 85℃1 分以上の加熱が必要です)  
感染者が使用した食器やリネン、衣類等を洗浄する場合は、次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約 200ppm)を使用し、消毒するようにしましょう。感染者がうがいや嘔吐した場所についても、同様に消毒が必要です。



## 感染ベストプラクティス作成しました！

☆看護部プロジェクトで作成していました「感染ベストプラクティス」が完成し、1月16日に発表会がありました。

### ☆感染管理ベストプラクティスとは

- ・医療・介護現場の処置や作業の一連の流れ(手順)
- ・感染対策上のリスク分析を行い科学的根拠のある解決策を検討した自施設の手順書

例えば・・・

尿道留置カテーテル挿入のマニュアルでは「いつ手を洗うの?」「どの場面で手袋をつけるの」といったような疑問がでてくると思います。ベストプラクティスは感染リスクを判断した根拠に基づいた手順書になっています。イラスト化することで視覚的にもとらえやすく、文字による読み違いや思い込みなどの問題が解決できます。

<イラスト例>



- 今回は
- ① 気道分泌物の吸引(開放式)
  - ② 尿路カテーテル挿入
  - ③ 末消カテーテル挿入
  - ④ 採血
  - ⑤ おむつ交換(2名で実施)
  - ⑥ 病室の日常清掃
  - ⑦ 嘔吐物の処理
- について作成しました

### ☆作成シートと活用方法

- 危害リスト  
危害リストはイラスト・チェックリスト作成のための判断根拠をまとめたものです。何か疑問が生じたとき・人に説明するときに確認ができます
- チェックリスト  
実際に使用するために危害リストを基に作成されています。自己評価や内部監査時に使用し、できた項目をチェックし、どのようなリスクを軽減できるのかを確認できるようになっています。
- イラスト(手順書)  
処置ごとに感染管理のポイント、特に外因性の感染経路(例えば医療従事者の手を介してなど)の遮断焦点を絞って、手順を分かりやすくイラスト化してあります。最重要ポイントマーク!をつけてありますので特に遵守しなければならないポイントがわかります。

### 期待される効果

- ・業務の振り返りができる  
改善すべき行動がわかる
- ・どの手順ができていないか明確になる  
できていない点を重点的に教育できる
- ・教育効果の確認ができる  
ポイント・優先順位がわかる

～みなさん 感染ベストプラクティスを有効に活用して実践にぜひ活かしてください～

